

第7回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成27年3月18日（水）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 23名（欠席15名）
事務局 6名

1 市長あいさつ

市來会長さん、谷副会長さんをはじめ、委員の皆様方には、平成24年8月から約2年半にわたり、市政の運営に対する様々なご意見・ご提言を賜り、心よりお礼申し上げます。

この市民協議会は、総合計画後期基本計画を策定した後の協議会で、総合計画を推進している期間中ということもあって、取組みの推進や検証に関してご意見を伺う機会が多かったが、真摯なご協議をいただいたことに感謝している。

こうした中、昨年夏に「消滅可能性自治体」というショッキングな言葉と、全国の市町村の約半分が消滅してしまうかもしれないという話は、全国に大きな衝撃を与えた。

本市としても国の人口減少対策の流れに呼応はしてまいりますが、一方では、このための都市間競争には巻き込まれないようにして、私たちが目指すまちづくりを進めていく必要がある。

本日お配りしている資料「施政方針」の3ページをご覧ください。ここで私が力を込めて書いたことは「ゆたかな社会」についてである。

私たちが、都市間競争の中においても目指すべき将来の姿は「ゆたかな社会」である。その中には様々なものがあるが、東京大学名誉教授である故、宇沢弘文が書かれたものがあり、私はいたく共感したので施政方針にあげさせていただいた。

まず一つ目は、「美しい、ゆたかな自然環境が安定的、持続的に維持されている。」、2つ目は、「快適で、清潔な生活を営むことができるような住居と生活的、文化的環境が用意されている。」、3つ目は、「すべての子どもたちが、それぞれのもっている多様な資質と能力をできるだけ伸ばし、発展させ、調和のとれた社会的人間として成長しうる学校教育制度が用意されている。」、4つ目は、「疾病、傷害にさいして、そのときどきにおける最高水準の医療サービスを受けることができる。」、5つ目は、「さまざまな希少資源が、以上の目的を達成するためにもっとも効果的、かつ衡平に配分されるような経済的、社会的制度が整備されている。」。私は、光市においては前の4つの資源、一つひとつが、今まだ原石ではありますが、あらゆるところにちりばめられている、これが光市のよいところであろうと思う。

この一つひとつの資源・原石を磨くことによって、私どもは「ゆたかな社会」を達成

することができる、どんなに人口減少社会であっても「ゆたかな社会」を達成することこそが、光市が目指すべき目標であり、私たちが目指すべき目標であると思っている。

皆様には、3月31日を持って任期が終わるわけであるが、終わった後もご支援をいただきたいと思っている。27年度の早い時期には第5期の市民協議会を立ち上げたいと思っている。この中からも委員としてご奉仕いただく方もあると思うが、委員として出られない方も「チーム光市」の一員として、私たちに力を貸していただきたい。

長い間、本当にありがとうございました、そして、またよろしく願いいたします。

2 会長あいさつ

本日はお疲れのところ、また足もとの悪い中、お集まりいただきありがとうございます。また、ただ今、市長さんから私たちへのご挨拶をいただいた。ありがとうございます。

市長さんの話を聞きながら、我々も委員としてどれぐらい果たせたかと思いながら、後期基本計画に関しては皆さんと討議させていただいたことを思い出していた。

先ほど事務局から、我々の任期も終わるということであった。皆さんとはまちでお会いすることもあろうし、市長さんからもあったように委員としてまた活躍される方もあると思うが、お互いがんばっていければと思っている。

今、光市の自然環境は本当に恵まれていると感じている。先日の新聞記事に、冠山総合公園の梅まつりの期間中に7万人の方が、県内、県外、遠くは千葉から来ていただいたとあった。私たちとしてはすばらしい財産を持っているなど、また、四季折々にいろいろな形で花に関する催しがあり、気持ちを和ませてくれる。

こうしたこともまちづくりの取組みの一つとして、財産として守っていく必要があるとも感じている。

また先日、東日本大震災復興応援チャリティ「なぎさ復活コンサート」が開催されたが、新聞の記事を読んでもみると、この協議会の委員の中からも5～6人の方が共鳴して携わっておられるとのことで、人の気持ちを思いやられ、「わ」づくりをしようという働きに感動した。

こうした小さな取組みがだんだん大きくなって、すばらしいまちづくりができるのではないかと思っている。今後とも、いろいろな形でご活躍いただきたい。

本日の議題は、「地方創生の取組みについて」ということで、国では「まち・ひと・しごと創生本部」という専門部署を設けるとともに、「まち・ひと・しごと創生法」という法律を整備して、進めようとしている取組みに関する内容である。

先ほど市長さんからもあったように、この「地方創生」にどのように取り組んでいけるのかなど、後程説明もいただけるものと思っている。

人口問題の問題は、地方はもとより国にとっても大きな問題であると皆さんも痛切に感じていると思う。こうしたことにどう取り組んで、このまちが元気になっていくのかということいろいろなとお聞きもしたい。

本日は最後の機会でもあるので、一人ひとりのお話をお伺いするよう進めていきたいので、説明を受けた後、皆さんからの建設的なご意見をお伺いしながら地方創生への提言ができたらと思っている。

本日はお集まりいただき、ありがとうございました。

3 議題

(1) 地方創生の取り組みについて

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

- 会長：ただ今、地方創生について説明をいただいた。テレビや新聞の報道で、皆さん百も承知のことと思うが、非常に重要な課題であることを、改めて認識したと思う。こうした状況を踏まえ、光市がまちづくりを進めていくためにはいろいろな形で計画を練らなければならない。説明にもあったように、人口減少を前提とした取り組みを進めつつあるもののこれからが大変なのだとのことであった。

「こうしたらよいのではないか」など、地方創生についてのご意見がいただければと思うなお、これは、あくまでも皆さんからの提言ということで、一々、事務局の応答は求めないことで進めてまいりたい。

ざっと見渡すと30名程度の委員にお集まりいただいているので、お一人1分ぐらいで建設的なご意見をいただきたい。

- 委員：市の方向性に合わせて共に進みたいという思いでこの会議に参加している。今日は、人口が減っていくという衝撃的なことを聞いて、大変なことであると思う。

資料では5年間で30万人の若者の雇用を創出という数字が掲げられているが、これがないと地域が保たれないということか。そのためにどうすればよいかということをもみんなで考えていこうというものか。

- 事務局：ご質問であったのでお答えしたい。2008年には1億2800万人の人口があったが、45年後の2060年には8674万人まで減るという推計が出ている。これを約1億人程度にとどめていきたいというのが国の目標であり、そのためにこの4つの基本目標の数値をクリアしていけば何とかなるのではないかとというのが国の考えであり、具体的にどうして行こうというものは現在は示されていない。

- 委員：私は、7年前に家を探していて、自分は大和の人間なので大和以外に転居する気持ちはなかった。主には女房が探し、30件ぐらい回ったらしいが、空き家はたくさんあるが貸してもらえない。

理由は、空き家になっている家に家財道具が置いてありこれを替わさないと人には貸せない。こういうことも考えて空き家バンクのことを考える必要があると思う。

公営住宅を建てるときに自分が問題であると思っているのは、2世帯住宅という考え

方が入っていない。子ども連れが入居されたとき、年月と共に年をとっていく。子どもが独立するときに2世帯がないとどちらかが出て行くことになるが、若い方が出て行くと思う。そうすると、お年寄りばかりが残ってしまう。ある次期子どもたちがドッと小学校に入るが卒業するとポツリポツリ減っていく。そんな風になってほしくない。

そんなことを考えたとき、大きな家が残っているが、そんなところで2世代3世代が暮らしていけるようなシステム作りを行政主導でやっていただけたらと思う。

- 委員：全国的には東京一極集中といわれているが、光市内でも似たようなことがおきている。国道を端から端まで走ってみるとよく分かる。まちが活性化しているところは人も多いと思う。東京一極集中の是正ももちろんであるが、施策を考えるにあたっては、こうした点もしっかり考慮いただきたいと思う。

また、全国市町村別将来人口推計の表では、光市は46.5%でもう少しで50%となっているが、2つ上の下松市では20.1%となっており、ここに何か参考になるものがあるのではないか。

- 委員：光市内でも室積は人口が減っている地域と思う。光市の端にはあるが、昔はもっと活気があったと思う。若い人が外に出て行くから人口が減る。働く場所がもっと光市にあれば人口減少が食い止められるのではないかと期待している。消滅という言葉が怖い思いである。人口が横ばいになるとよいと思う。

- 委員：子どもが4人いて上2人が大学生であるが、2人とも光市に帰ってきたいと言ってくれている。また、中学校の役員をしているが、今年の卒業生の中に、将来光井に帰ってきて光井の力になれることがしたいという子もいたとのこと。

こうした子どもがたくさん増えれば地域も活性化するし、市も活性化すると思う。こうした子どもが増えるまちづくりができればよいと思う。

- 委員：東京一極集中から地方にという考えには、大いに賛成である。東京は地震などの災害の恐れもあるし、地方に分散するというのはよいと思う。

また、私の子どもが川崎市にいて、なぜこんなことがおきるのだろうかと話した際に、ヴァーチャルと現実の差がわからない、人との関係を持たないで籠ってしまう子どもが多く、そうしたことも理由ではないかと話した。

人と人が意見をぶつけ合って情報交換するなどが、自分を形成するのに有効ではないかと思う。

- 委員：人口問題のためには雇用の確保が大事であると思う。一番いいのは大きな会社があればよいと思うが。

また、ニューファーマー、ニューフィッシャーの取組みもある。特に光は海が素晴らしいので、是非ニューフィッシャーの方にがんばっていただきたいが、反面、海産物を作る加工場が事業をやめてしまったということもある。光の特長を活かした産業については手厚く手助けしてほしいと思う。

- 委員：若い人が減っているといっても、私たち夫婦が今から子どもを作るわけにはいかない。若い人が喜んで住める魅力のあるまちにしたらよいと思う。

例えば、私は武田薬品に勤めていたが、今、若い技術者が大阪などから6ヶ月とか1年ぐらい工場には勤めるが、住む場所は下松を選ばれるとのこと。家賃があまり変わらず、時代だと思うが自分ならお酒を飲んで帰るにも近いし、通勤時間も短い光を選ぶが、今の若い人たちは価値観が違うようで、休みの日に映画に行ったり下松なら自分の望むものが手の届くところにあるから下松を選ぶという話も聞く。

具体的のどうすればよいという案は持ち合わせていないが、若い人に魅力的なまちづくりをしてほしい。

これからは、若い人に集まってもらって提言を受けるような会議をたくさん作っていただきたい。

- 委員：皆さんの意見には納得させられるばかり。自分は少し角度を変えて話してみたい。まちづくりに根本は、小さな子どもの教育から始まらなければいけないと思う。先日宇部に行き、女性の教育長さんと話したが、今はコミュニティースクールの時代であるので、皆さんは校長室のドアを開けてくださいといわれた。

光もコミュニティースクールを進めているが、小さな子どもたちに光のよさを、自分おふるさとして誇れるかは、私たちが教えていかなければいけない。

学校教育では通常の範囲しか教えないので、ある程度学校の中に踏み込んで光市の歴史、山口県の歴史を教えていく、例えば、萩に行ったとき私たちは吉田松陰と口にしますが、明倫小の子どもたちは松陰先生と呼ぶ。光に置き換えれば伊藤博文先生と呼ぶ、そうすれば歴史とかもわかってくる。松岡洋介の名前にしても、あれは戦犯だということだけでなく、彼がやった功績もある、そうしたこともちゃんと教えていかなければいけない。

最後に、人口が減るのは仕方がない。近い将来8千万になるのを1億でとどめたい、それは量であるので質、クオリティを追求して、日本人は少ないけれど、これだけ賢い高い能力を持っている民族だという方向も考えるべきだと思う。そうすると、やはり小さな頃から教えていかなければならないと思う。

- 委員：以前から思っていることの一つに、先ほどからも言われているように、この光市には素晴らしい自然がある。白砂青松の海岸線、伊保木海岸は少し荒々しい岩肌で荒れれば怖いぐらいの海岸線である。この海岸線を利用して、是非ともサイクリング

ロードを長期的に設置されるならば、ここに住む皆の健康につながるだろうし、他県、他方からも足を運んでくださるのではないかと思います。

- 委員：光市の安心安全、地域に根ざした福祉活動の展開を、光市内122名の民生委員で進めている。この会議にも数名参加している。行政サイドの施策について、今まで以上に意識をして勉強しながら、本日も出席の皆さんもそれぞれの立場・関係の皆さんですので連携しながら、我々も心を一つにして身近な安心安全、地域の福祉活動のお手伝いをしてまいりたい。

また、民生委員活動は市民の皆さんのご支援とご協力で成り立つもの。今までのご協力にお礼を申し上げ、連携をさせていただいてお手伝いしてまいりたい。

- 委員：近所の男女35～40歳ぐらいの独身の方が多くいる。婚活パーティーなどもあればよいと思う。山口ではあるようである。婚活も安心して進められるよう、行政が主催したちゃんとした婚活パーティーを考えてほしい。

- 委員：以前配布されたまちづくりの指標を見ていたが、それぞれの目標の項目立てを、どなたがまとめていかれたのかと思った。例えば、項目に対して関係団体というのがあるが、そういう方も参加していればよいと思う。実践の進捗とか達成状況というのは高まるのではないかと思います。

- 委員：人口減少は、自分たちのところでは今始まったわけではなく10年前からこういうことは言われている。現実、住んでいて自分のところは限界集落に近い。そういうところに人を呼び込む、市に人を呼び込むときに何がいうかという、やはり雇用と思う。みんなが働ける場所を、いち早くどんどん作っていかないと人は集まらないし、買い物をするにしてもスーパーがないといけない。現状は早くわかっていたことなので、もっと早くから考えておかないといけないことだと思った。

また、子どもを増やすことについて、今は女性が減っていくということもあるかもしれないが、出産年齢が上がっていることもあるので一人の人が何人も生むことが難しいこともある。育児をするうえでも昔はおじいちゃんおばあちゃんが家にいたが、今は核家族化が進んでいて、子どもが一定の年齢になったら預けてしまう。親の愛情がどれだけ子どもに伝わるかといえば伝わらないから今は、小学校に上がる前には保育園幼稚園で教育をして小学校で迷惑をかけないように、中学校に上がる前には小学校で教育をして中学校に上げるようにしてくれという形の、一貫教育でしか進められなくなっている。先生も、学校で一生懸命子どもを育てるが、自分の子どもに十分な愛情を注げない環境にもあると思う。

仕事が必要ということについて、自分は早期退職しているが、今は年金がもらえる年齢も段階であがっていく。年寄りを雇用してくれるところはないが、こうした人を雇

用していかないと自分のような人が増える。若い人たちのことも考えないといけないが、年寄りのことも考えないと、どちらもよくなるしない。

- 委員：若い人が光市に残れる環境を作っていただきたい。例えば、学校を出て就職するが、行政も学校も関係機関も協力して光市に希望して残ってくれるような環境を整えなければいけない。高齢者は定住しているが、今の高齢者が増えるわけではない。生活環境のよい光市に若者が残れるようにしたい。

そのためには、行政、学校、関係機関が協力して、一人でも二人でも多く、光市で育ったものが光市に残るようにしたい。

優秀な若者が他の市町村に出て行く例もある。こうした現状を打破しなければ、光市は人口は増えていかない。自然環境のよさだけでなく、若者が住める、働ける環境を作ることが活性化に必要だと思う。高齢者が増えたり、介護施設が増えるのでは、活性化にはつながらない。とにかく若者が光市に残って、光市で働いてくれる、具体的な取組みを、一致団結して進めることが大切と思う。

- 委員：幼稚園の卒園式に出席したが、卒園が9人で来年入園するのは4人と聞いた。ほかの幼稚園も同様で、入園する子どもが激減している状況と聞いた。

人口問題ということであるが、新年度予算の概要の中で、人口定住促進事業として掲げられているが、これは今住んでいる人が出て行かないようにするということか。

先ほどから話が出ているように、ここに移り住んでくる人が増えなければ人口は増えないと思うが、そのためには働く場所が必要である。では、どうやって働く場所を作るかという、いろいろ模索はされていると思うが、石川県の5千~6千人ぐらいのまちで20年ぐらい前から企業誘致を進めていて少しずつ増えてきたが、また少し減ってきたとあった。やはり企業誘致をして、働く場所がないと人口は増えないと思う。特に若い人が働く場所があって光に来れるよう、耕作放棄地の活用など、転用は農地法もあって難しいとは思いますが、どのようにすればできるのか、そうした模索がされているのかも聞いてみたい。

- 委員：私はお菓子屋を営んでいてイチゴをたくさん使っている。光市の特産品としてイチゴをやっていくことには大いに期待している。私の店では、1シーズンに5千キロほどのイチゴを使っている。しかし全部市外からとっている。

先日、里の厨で採れはじめたイチゴを広島の洋菓子店に納めているという記事を見て大変がっかりした。

六次産業化と地産地消をつなげていくことも必要と思う。是非、市内で採れたイチゴでお菓子を作りたいと思っている。

- 委員：人口減少を食い止めるのは難しいとして受け入れて、それにどう対応するかと

ということもある。子どもを増やそうとしてもこのままでは難しい。働く場所を確保することが必要で、人口問題は、生活の糧を得る場所があるかないかということに尽きると思う。

じゃあ企業誘致すればよいかというと、それは昔からの手法であるし、冒頭市長が言われていた都市間競争の畏に落ちるのではないかと思う。そうすると、この光市の中で雇用機会を増やすことをどうすればよいかということになると、前の委員が発言されたのがよい着眼点と思うが、里の厨に代表される農業の六次産業化、また、水産の話しもあったが、農林水産の関係で六次産業化を図っていく、時間がかかると思うし、これにも地域間競争はあると思うが、一刻も早くアイデアを実現する体制という仕組みを作っていくということが必要と思う。

- 委員：先の委員の発言で空き家を探した話があったが、私も同感である。私も空き家バンクには興味を持っている。塩田は田舎で、人口よりサルの数が多い時代になった。昔は、職をリタイアされて田舎に住みたい、家庭菜園をやりたい、こんなことを言っただけで田舎にこられて、私も何件かお世話をしたが最近では空き家ができるほうが多く、最近では言っただけで1軒という状況である。家庭菜園をやる用地はあるが、サルがあれだけいたら、私たちが農業をやる中でも、野菜を作るより買ったほうが良いような状況にもある。先日も、高崎山に負けないぐらい良かったが、観光でやるのでなければ駆除も必要と思う。

職をリタイアして田舎に住み、家庭菜園をやっただけでのんびり暮らすのも良いと思う。若い者はまちに住んで、年寄りには田舎でよいと思うので空き家バンクの創設は良かったと思う。

- 委員：私がまちづくり市民協議会委員として務めた10年を見返してみたい。後期基本計画を策定するときに地域別まちづくりきらめきワークショップを、各地域の方が集まって16回開催した。この成果が出るのが27年度であるが進んでいない。皆さんが言われた意見が5年たっても変わっていない。何も進んでいない。意見が反映されていないと感じる。

下松は住みよさランキング中四国1位である。柳井が2位で、山陽小野田が5位である。大和でコンパクトシティの取組みを進めようとしているが、このモデル地区の柳井、山陽小野田はランキングに入っているが光は入っていない。

また、岩田でコンパクトシティの取組みを進めているが、地域の人の話をたくさん聞いて早く進めないと、5年も経てば人がいなくなってしまう。

最後に、大和地域に小学校が4校あるが、地方創生の中で統廃合という言葉が出てきた。4つを残すか、4つを1つにするか、これは地域の人が早く意見を出して考えて、学校を残すのであれば空き家に住んでも近くに学校があるが、このままだと統合されてしまう。地方創生の中では、公共交通機関を使って1時間以内であれば良いですよ

と言っている。最終的には市の教育委員会が決めるのであるが、地域でも決めていけないといけないと思う。

- 委員：市外の方でも、光市で出産、育児を是非したいと思えるような施策があればよいと思う。例えば、市内には産婦人科が2つあるので、そこで出産される場合には検診が無料になるとか、出産費用がかなり軽く出来るなど、他の市にはないような施策があれば、他の市からも結婚してこちらで出産したいとか育児したいとか、子育て支援も充実してあれば来たいと思う人はいると思う。自然や環境も良いと思うので、光市で子どもを生み育てたいと思う若い人を呼び込めるような施策を進めていただきたい。
- 会長：皆さんに意見を求めながら、短い時間でまとめていただいた。ご協力もあってちょうど時間にもなったが、委員からの貴重な意見であるので、事務局においてはしっかりまとめていただいて次の糧にしていきたい。
また、他に意見がある方は、事務局まで連絡されたい。

4 報告

(1) まちづくり市民アンケート（概要）について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

- 会長：今、報告があったように、正式に公表されれば委員の皆さんにも配布することであるので、それをご覧になってご意見、ご質問があればと思う。
説明があった中で何か質問があれば。
- 委員：前にも言ったことがあるが、回答率が50%を切る、40数%であるが、この回答率を上げるためには何かをしないといけないと思うと発言した。
42.9というのは、半分以上は関心がないと捉えたほうが良いと思う。
- 事務局：回答率については私どもももっとほしいと思っている。なるべくたくさんの方々に回答いただきたいと思いつつ、このような状況である。
ご意見・ご提言として捉えさせていただきたいが、何が出来るかといわれれば非常にお答えも難しい。設問や見易さなども含めて検討してまいりたい。
- 委員：毎回感じることは、回答者の多くが60歳台以上であるということ。回答されない中に若い方がおられるのかどうか、満遍なく各年代の人たちに発送されているのかどうか、わかればお聞きしたい。
- 事務局：今年はまだ出していないので昨年の状況で言うと、10歳台が18.2%、20歳台が19.9%、30歳台が33.2%、40歳台が36.5%、50歳台が

44.4%、60歳台が51.8%、70歳台以上が58.3%で、これは送った方の回答率で、お見込みのとおり若い方の回答率が低い状況である。

5 その他

○次期のまちづくり市民協議会についての紹介

- 事務局：次期（第5期）「まちづくり市民協議会」について、少しご紹介させていただく。「第5期」となる次期の協議会では、現在、推進している「総合計画後期基本計画」の期間が平成28年度末までであるのでその進捗管理、並行して、先ほど説明した光市版の「人口ビジョン」「総合戦略」の策定、また、「次期光市総合計画」策定にも着手すること、これらについてご意見等をいただく予定としている。
設置時期等につきましては、早期に委員の公募や選定を行い、来年度のできるだけ早い時期に設置したいと考えている。

※ 会長・副会長あいさつ

- 副会長：大任を仰せつかって務まるかと不安であったが、皆さんの温かいご支援とご協力で無事大任を果たすことができた。今後、このまちづくり市民協議会で皆さんと交わした意見で、立派な光市となることを期待している。
- 会長：皆さんのご協力を得て、大役をこなすことができた。厚くお礼申し上げたい。皆さんと意見を交わしながら、後期基本計画に携われたことで、微力ながらお力になったのかなと感じている。
なにはともあれ、私たちが住んでいるまちである。住んでよかった、住みよいまち、住みたくなるまち、人の輪が大きくなって光市はすばらしい、そんな若者がよろこんで住めるようなまちを目指して、皆さんの意見が反映されると良いと思う。
皆さんもこれからもいろいろな形でご活躍なさると思うが、ご健勝と、ますますのご活躍を祈念し、さらに光市のまちが明るくなることを祈念してお礼としたい。
ご協力、ありがとうございました。

終了 20時05分